

厳島 千畳閣法要と立正安国

広島といえば、平和祈念公園の原爆ドームや宮島の厳島神社が有名である。その一つ、毎年観光客で賑わっていた安芸の宮島もコロナ禍の影響で今年は様相が違うようである。

その厳島神社に千畳閣というお堂がある。厳島神社には、平清盛が一門の現世安穩後生善処を祈って『法華経』を納めた。この『平家納経』は経巻経軸をはじめ全てが美術工芸の粋を尽くした国宝として今に伝わる。時は下り太閤秀吉が、朝鮮の役にて戦死した将兵の為に千僧供養を志し、安国寺恵瓊に命じ建立させたのがこの千畳閣である。しかし、堂宇未完のまま太閤秀吉の宿願であった千僧供養は果たされることはなかった。

毎年、この厳島神社千畳閣にて「法華経読誦 施餓鬼法要」が行われている。厳島神社と広島の本山國前寺との縁故、熱き思いと情熱「太閤秀吉さんが果たせなかった、多くの戦いに亡くなられし方々へ、千人の僧侶による供養（千僧供養）を現代に」との願いは見事に一致した。歴史を振り返りては遠くは源平の時代から戦国時代……そして太平洋戦争、原爆投下。長い歳月の間に幾多のいのち（生命）を呑み込んで、今の私たちがいる。数知れぬ精霊を供養し、更に四生六道法界万霊に供養を施す。しかも厳島神社の縁ある『法華経』をもって供養を為す、との強い願いが形となって現れ、本山國前寺地元広島県宗務所、聲明師会、さらには全国聲明師会連合会の協力により毎年「ご供養と立正安国の平和の祈り」が千畳閣にて行われている。

令和2年（2020）11月の、通算25回となった法要はコロナ禍での感染拡大予防の観点から地元の方々のみで行われた。令和元年度でこの法要に出仕する全国からの僧侶は1406名となり、千僧供養の志をはるかに超えるものとなった。

安芸の宮島 彩あざやかな厳島の宮に、これからも毎年「法華経読誦と聲明の響」が山に海に、開悟得脱の祈りと共に立正安国世界平和の願いとして届けられるであろう。



画像提供:日蓮宗新聞社
第20回厳島神社千畳閣千僧供養成就
法華経読誦施餓鬼大法要(2015年11月5日)